

平成28年度第3回根室市市政モニター会議【記録】

1. 日 時 平成28年11月24日（木）午後6時30分～午後8時30分
2. 場 所 根室市役所 3階 大会議室
3. 出席者 【市政モニター】 10名

【市 側】 4名

総務部長、総務課長、広報広聴主査、広報広聴担当

4. 今回の会議開催方法について（事務局より説明）

本日は、提言書に盛り込む内容を決めていただきたい。提言書に盛り込む内容については、第2回会議で出された意見をもとに決めたいと思う。これまでは、広く意見を出していただき、議論を広げてきたが、今回からは意見を収束させる方向としたい。市政モニター会議全体の総意として提言とするため、相反する意見が出ている点を整理し、提言書に盛り込む内容について議論いただきたい。本日の協議をまとめ、次回会議の際に、提言書の案という形でお示ししたいと考えている。

5. 以下、会議詳細

◎座長

これまでの意見を見ても、根室には魅力がないから、魅力のあるものをつくるという意見と、根室には魅力があるが、その魅力を活かしていないので、その魅力を活かす。という大きく分けて2つの意見が出ていたと思う。今回の提言は、「ないものをつくる」より、「あるものを活かす」ことを基本に、かつ実現可能なものとしてまとめていきたいと思っている。よろしく願いしたい。それでは第2回市政モニター会議で出された主な意見の中から、提言に盛りこむかどうか決めていきたい。

まず1番目の『活力あるまちをつくるために必要な取組み』の「1-①オートキャンプ場の整備」、「1-②飛行場の建設」、「1-③新幹線の延伸」このことを提言に盛りこんだほうがよいか皆さんから意見を伺いたい。

○モニター

基本的にモノをつくることには反対だ。「1-①オートキャンプ場の整備」は過去にすでにやって失敗しているし、「1-②飛行場の建設」についても過去に建設する話が出たことがあるが現実には至っていない。「1-③新幹線の延伸」についてはJRの在来線が危ないという現状で実現は厳しいと思う。3つとも自分は否定的な意見である。

○モニター

現実的に考えるとすべて厳しいと思うが、やるとすれば「1-①オートキャンプ場の整備」については過去の失敗を踏まえてノウハウや反省点を生かせるのではないか。場所は山奥ではなくて根室らしく海沿いにするなど工夫してはどうか。

◎座長

最初に申し上げたとおり、これまでに出了意見を見ると大きく「ないものをつくる」という意見と「あるものを活かす」という意見に分けられる。モニター会議の総意で提言書をつくるにあたり、どちらかを基準にしてまとめる必要があると感じている。私としては、「ないものをつくる」よりは「あるものを活かす」提言にすべきだと思う。また、提言するからには、実現可能な提言とすべきであると考えている。そうしたことから、「1-①オートキャンプ場の整備」、「1-②飛行場の建設」、「1-③新幹線の延伸」の意見は盛り込まないこととしたい。

次に「1-④北海道一の規模を有する市場の建設」についてであるが、意見があればいただきたい。

○モニター

市場の建設となると、場所の確保や予算等の問題があるので難しいと思う。これについても、新しくつくるのではなく、現在行われている（海産物の関連の）イベントやお祭り等を広げていったほうがよいのではないか。

◎座長

「あるものを活かす」という考えで提言をまとめることとするので、「1-④北海道一の規模を有する市場の建設」についても提言に入れたいこととしたい。

次に、「1-⑤春国岱の木道整備」についてであるが、こちらについては今年度から市で徐々に進めている内容であり、今後も進めていくということであるので、あえて今回の提言書には入れないこととしたいと思う。次に、「1-⑥農水産業を活かした観光振興」について、意見をいただきたい。

○モニター

一次産業を通じた観光振興は進めていくべきだと思う。市場のセリ見学や漁業者宅への民泊などは、受け入れる側の意識付けが現時点ではできていないので、そういった意識付けを先にやってから取り組んでいけば、よいと思う。

○モニター

サンマのセリ見学に都会に住む知人を連れて行ったことがあるが、活気があってとても喜ばれた。鮮魚を食べ、モノをたくさん買ってもらい、根室の良さをPRできる。10年くらい前から大阪や静岡から修学旅行生が根室に来ている。漁業者宅への民泊もおこなわれている。行政側としても誘致や、来やすい体制づくりが必要だ。食と自然は根室の観光振興に欠かせない。

◎座長

これまでの意見を総合して「1-⑥農水産業を活かした観光振興」については提言に盛り込むこととしたい。

次に「1-⑦ガイドツアー参加者への補助金の創設」について、意見をいただきたい。

○モニター

自分は反対だ。例えば、落石のクルージングにくる観光客は高いお金を払ってくる富裕層が多いのでそこまではする必要はないと思う。それなら、根室の魅力を伝えるガイドの養成などにお金をまわすべきだ。

○モニター

補助金を出すことによってツアー料金が下がれば、一時的に観光客は増えるかもしれないが、補助がなくなりツアー料金が上がった時には来なくなる。それだったら冬の観光をする際に、観光客が移動しやすいように交通機関の助成などを検討した方がよいと思う。補助金をガイドツアー参加者のために使うのは抵抗がある。以前、そのような補助金があり、自分が働いていた会社でお試し価格で出したことがあるが、飛びつくのは大手旅行会社で、1、2年は来るが、高くなると全然来なくなるのが現実である。

◎座長

それでは、「1-⑦ガイドツアー参加者への補助金の創設」については提言に盛り込まないこととしたい。

次に、「1-⑧スポーツ施設の整備」についてであるが、「ないものをつくる」のではなく、「あるものを活かす」という今回の提言の趣旨から、盛り込まないという方向でどうか。

○モニター

市民に夢や希望を与える、活力あるまちづくりのためにも体育館の建設は必要だ。新体育館建設により、イベントや大会があると人が集まるし、中体連・高体連などの全道大会規模の誘致にもつながり、まちの活性化にもつながる。

○モニター

新体育館建設基金が既に創設されている。すでにつくる予定で話が進んでいるのであれば、今回のモニター会議としての提言には盛り込まなくてもよいのではないかな。

○モニター

民意として提言に盛り込むべきと考える。実際に建設されるのはいつになるかわからない。現状として意見が出ていることを示して早期建設を促すためにも盛り込むべきだと思う。

○モニター

スポーツをする人は多いが、この基金があることを知らない人は相当多いと思う。機運を高めるためにも盛り込むべきだと思う。そのためにふるさと納税をする人もいる。

◎座長

これまでも言っているが、市民の声としては、「ないものをつくる」のではなく、「あるものを活かす」提言となったほうがよいと考えている。体育館建設を盛り込むと、オートキャンプ場整備等もすべて盛り込むことになるなど、話が膨らんでしまうので、より現実的な提言を中心に考えるべきではないか。

○モニター

座長の考えありきで会議が進行している。それでは他のモニターの意見が通らない。市政モニター全員の意見として、出来る、出来ないで判断せずに、魅力あるまちづくりのためには何が必要なのかを、まとめるべきだ。

○モニター

スポーツ施設は、各地から大会等で子供たちも集まってくるが、根室にはさびれた施設しかない、根室の子供たちも魅力を感じずに過疎化する一方だ。何年先になるかわからないが、子供たちに夢を与えるためにも、一つくらい誇れる施設があってもよいのではないか。

○モニター

自分も座長の考えが先行している印象を受ける。「ないものをつくる」という意見を全て排除せず、「作ったほうがよい」という意見があることは提言に盛り込むべきだと思う。

○モニター

総合体育館整備市民委員会との整合性もあるが、市政モニター会議としては、財政が厳しい折りではあるが、まちの活性化のためにも建設したほうがよいという意見を出すべきだと思う。

○モニター

市政モニター会議の出発点がわからない。例えば、オートキャンプ場の整備を一つとりあげても、関連するものが色々出てくる。それをまとめて、施設をどうするかということのアイデアを出すならまだしも、個々のものを思いつきで色々出してもモニター会議としてどのようにまとめればよいかわからない。

市の総合計画では、市民が何を必要としているのか、どのような点に問題があるのか、将来的にどのように考えていくべきかまでしっかりと書かれている。モニター会議としては、総合計画

ではあまりに広すぎて総合的なので、どこに集中して考えればよいか示してもらえれば、我々として意見を出せると思う。

また、皆さんの意見の中にはハード面はいらぬという意見が出ているが、実際根室にはハードの充実が必要である。ハードが充実していないから、夢も希望もない。人が集まらない。ということにつながっている。体育館や公式なグラウンドがないから、選手を誘致したくてもできない。人を集めるには そうしたハード面をしっかりと整備する必要がある。市民に夢を与えるには、どうすればよいかということについて提言すればよいと思う。根室に魅力が無いというのはハードが不足しているからである。魅力が無いから住みたくないということにつながる。

だからここでは、「どのような施設が必要か」という議論よりも、「ハード面を充実するにはどうしたらよいか」や、「ハードの整備に対する市民意識をどのように高めるか」といった提言をしていかななくてはならないと思う。

座長は意見をまとめると言っているが、何をまとめるのか。せつかく出てきた問題が、くぐられた形になって何にもならない。意見は無理にまとめる必要はないと思う。「モニター」とはそもそも批判するという意味で、市政に対する批判をする場だ。それぞれの意見があつてよい。

○モニター

提言というのが何なのかということから考える必要があるのでは。これまでの意見から提言として盛り込むことを取捨選択するのか。もっと大きく捉え、魅力ある魅力ある町をつくるにはどうするかというのをもう一度考える必要があるのか。何をどういう形で提言するのが難しいと感じている。

●事務局（広報広聴主査）

事務局としては、今後は意見を収束させていかななくてはならないと考えており、皆さんである一定のルールを決めていただき、これまで出た意見から提言書に盛り込む内容を選んでいただきたい。

○モニター

さっきは、何かをつくろう、という意見が多数だったが、座長が意見を通そうとする感が強かった。もう少しモニターの意見を聞いて現実的かどうかは別として、モニター会議として多数出された意見なので、盛り込むべきだと思う。

○座長

「1-⑧スポーツ施設の整備」については、盛り込むということとしたい。

○モニター

博物館や資料館の建設については何十年も前から市民より必要性を求められているのに、一向に話が進んでおらずおかしい。今回の会議でも話が出ているのに意見をなくしてしまうのはどうなのか。財源がないのであれば、集める方法を考えればよい。

○モニター

ハードは駄目という意見があるが、私はそうは思わない。ハードが大事だと思っている。ハードは必要ないという意見がある一方、ハードを整備するとしたらどうするか。お金が無いといってしまうと、何もできない。そのためのお金を作る方法や、基金を設立するとか、できる方法を考えていくべきだ。意見として出していくのが大事だと思う。お金が無いからハード整備はしないというのでは理由にならない。

前回、私は10億、20億の博物館をつくるという意見を出した。多額のお金をかけて、そんな施設が必要あるのかとの意見もあると思うが、世の中には価値がないと思われているものにお金をかけてヒットすることがある。そのような施設が地域の目玉となり、人が集まるかもしれない。モニター会議の意見として、充実した施設の必要性を提言してよいと思う。ハードを完全に排除する必要はない。

○モニター

そうすると、今まで出たバラバラな意見を全て提言として盛り込むことになってしまうのも、まとまりのない提言になってしまう。

●事務局（広報広聴主査）

まとめ方の手法はいろいろあると思うが、どうしてもハード整備となると維持費もかかるし、後生に負担を残す提言になってしまうという面もあると思う。それでもやはり夢を語る提言をするのか、それとも実現可能な提言をするのか、そこを皆さんである一定の方向性を決めていただいた上で、第二回のモニター会議で出された意見をベースに盛り込むべき提言、削除すべき提言を決めていただいたほうがよいと思う。

○座長

話を戻して2番目の「安心して暮らせる町をつくるために必要な取組み」に進ませていただく。「2-①新設高校への福祉医療関係専門科の創設」について意見をいただきたい。

○モニター

新設高校については、これまで委員会などで議論され、ほとんどのことは決まっていると思うので、無理ではないか。

○モニター

「2-③産婦人科医の確保」があるが、産婦人科に限らず安心して暮らすために一番大切なのは、医療関係ではないか。病院の建物が立派になっても、いまだに釧路や中標津に患者が流れている現状がある。医師確保のために努力しているのはわかるが、医療の充実が一番大事だと自分は感じている。

○モニター

市長が札幌で手術をすると聞いた。新しい病院ができて、そこで治療ができないのであれば、根室の病院は駄目だといっているようなものではないか。

●事務局（総務課長）

それは、病気の程度によるものである。医療に関しては段階があり、根室で治療できない高度な医療は中央の病院が担っている。これは1次医療病院、2次医療病院と病院の役割を位置づけ、全体を機能させる全国的なシステムである。

○モニター

そうであれば、それをしっかりと市民に知らせるべきだ。

●事務局（総務部長）

事あるごとに言っている。周知不ということだけではなく、市民側も病院のことを知っていただきたい。

○モニター

病院等は良い例だと思うが、根室の魅力は何かと考えたときに東京と同じレベルのものを求めるのは違うと思う。根室は北海道の端だが、自分はとても楽しく生活しているし、根室のことが大好きだ。しかし東京と同じものを求めるのは厳しいと思う。そうではなく根室のよいところをみんなで伸ばしていけるような提言ができればよいと思う。ないものばかりを言っても、こういう土地柄もあり、実現は難しい。しかし、東京にはなくて、根室にあるものはものすごくたくさんあると思う。そういうところを伸ばしていく提言にすべきと感じた。

○モニター

まったくそのとおりだと思う。しかし、65歳を超えると、そんなことは考えられず、自分の体を一番に考える。若くて、お金があり、生活基盤があるからそう考える。ない人は、そんなことは考えられない。必死になって生きているのが事実。

もし病気になったとしても、ただ住みやすいだけでは病気は治らない。いざ、何かがあったとき、どうするか。ということを考える。子どもたちがそういうことを心配して、親を都会に呼ぶことにより人口が減っていくのではないか。

○モニター

確かに高齢者が、安心して暮らせるまちをつくることは大切である。そういうことであれば、例えば今年のモニター会議はその部分に焦点をおいて、提言するのほひとつの方法ではないか。全体を見て、ひとつひとつの意見について議論しても、提言としてまとめるのは、難しいのではないか。モニター会議が今年で終わるという話では無いと思うので、今年は高齢者の生活のことを考え、来年はまた違うことについて考えるのも、ひとつの方法ではないか。

●事務局（総務部長）

例えば、観光も含めた人を呼び込むまちづくりの提言にするのか、今言った高齢者にやさしいまちづくりの提言にするのか。または教育関連に特化した提言にするのか。議論を絞って、1年、1年内容の濃いものにするのもひとつの手段ではないか。

◎座長

各方面からのいろいろな意見があり、どのようにまとめればよいか難しいと感じていた。今年で終わるわけではないので、そういう方法もひとつだと思う。

盛り上がったということは皆さんが考えていることだと思う。医療の話から福祉の話にスイッチしていったが、今後の大きな枠組みとして福祉にまとめて・・・

○モニター

座長は大変だと思うが「まとめる」という言葉を使わないで欲しい。意見を囲わないで欲しい。自由な意見を出し合うバリアフリースタイルにしたほうがよい。まとめる必要はない。市民は何を求めているかという方向性を出てきている。人口流出を食い止めるためにはどうすればよいか、「病院が必要」「保育施設も必要」「体育施設も必要」など今後検討していく問題の方向性は意見として出ている。その方向性を拾っていけばまとまる。意見をまとめるのは良くない。

○モニター

医療についてモニターからの意見が多いということはそれだけ市民の関心が高いということ。実際に自分たちはまだ若いですが、年を取ったときに考えが変わるかもしれない。そのことも考えがかわるかもしれない。そのときに備えて今から対策していったほうがよいかもしれない。

○モニター

病院ができる前は「根室にあそこまで立派な病院は必要ない。」「根室に相応しくない」などの意見はたくさんあったが、結果としてあれほど素晴らしい施設ができた。最近、新たな産婦人科医が着任するという明るいニュースがあったが、医者が足りない。人口流出を阻止するためには医者の充実が必要だ。

●事務局（広報広聴主査）

「まとめる」べきではないという意見があるが、やはり意見が広く感じる。総務部長から話があったとおり、医療・福祉、教育、産業振興などの意見が出ているが、その中でも2番目の「安心して暮らせるまちをつくるために必要な取組み」の部分に方向が向かっているように思う。この中から絞って今年の提言とするのはどうか。

○モニター

私は、仕事、結婚、妊娠、出産、育児すべてが連動していることから、モニター会議としては産婦人科の確保と分娩できる体制を提言すべきだと思う。

○モニター

産婦人科医についてだが、私も子どもが2人いる。1人目は釧路で生み、2人目は、地元の埼玉で生んだ。埼玉の産婦人科医の先生は、市立根室病院から産婦人科医の募集が来ていたことを話し、「うちの病院も6～7人先生居るけれど、一人でも先生が欠けるとうちもやっていけない。今はどの病院も産婦人科医が足りなくて、色々なクリニックが閉院を余儀なくされている。産婦人科医自体が足りないから、根室に行くのは難しい。」と言っていた。そこで市が募集をかけてくれていることを知った。そのお陰で今回の先生も宮崎から来るのだと思う。

他の診療科についてはもう少し進めて欲しいと思うこともあるが、産婦人科医については、市側がもう動いていてとても努力している。しかし、それでもどうかして欲しいという要望があり、それは誰もがわかっている。わかっていることを提言書に入れる必要は無いし、産婦人科に重きを置かなくともよいと思う。

実際に私は根室で出産できないことを承知して根室に来た。多くの人が出産できないから根室に来ないというのは少し違うと思う。根室も医師が2名体制になったからといってすぐに分娩再開が可能になるわけではないと思う。これらのことから、市に対して分娩再開を求めても「わかっている」という答えしか返ってこないと思う。提言するからには市からよい返事をもらいたい。可・不可・頑張っていますという答えではなく、私たちが出した提言をもとに、市が動いているとわかるような意見を出せたらよいと思う。

会議の中でたくさんよい意見が出ている。その中で、市が実現してくれそうなもの、ちゃんとした答えを導いてくれそうなものを出すとよいと思う。

○モニター

本来は、出ている意見を全て提言できればよいが、今までも同じようなことを言っているものは入れなくてもよいのではないか。先ほど出た体育館のように再度押すものは別として、産婦人科については前々からわかっている話だし、新設高校の専門課案はすでに決定済みな為、提言書には入れない方向で整理したほうがよいと思う。

それよりも、この後に出てくる「教育レベル向上」や「ケアマネージャーの育成」、「健康づくりの推進」、また、「子どもと大人の相互見守り環境整備」などについて提言してはどうか。まとめると言うよりも意見を絞っていったらどうか。

自分は、以前、意見が出た病気になって病院に行くのではなく、事前に健康づくりに励んで、病院に行く回数を減らし、税金の無駄を省くというアイデアは非常によいと思う。根室で獲れる（採れる）物を食べて予防して、健康になればよいと思う。

○モニター

健康づくりや病院関係など、まとめられる案件はまとめて、それ以外の案件は次年度以降に持ち越して、機運が高まったときにまた議論すればよいと思う。

●事務局（総務部長）

今回たくさん出た意見は、仮に今年度提言できなくても、次年度以降、改めて議論を開始しなくとも今回の内容をたたき台にスタートするという案もある。

◎座長

一つのテーマに絞って皆さんの意見を出し合ってもよいのではと感じたが、皆さんの意見はどうか。

○モニター

これまで、「1番 活力あるまちをつくるために必要な取組み」、「2番 安心して暮らせるまちをつくるために必要な取組み」と協議し、一本化の案が出た。一本化して提言書を提出するということには賛成だが、「3番 市民が知らない根室の魅力を発信する取組み」まで協議してから一本化する内容などを検討するのが筋ではないか。

○モニター

先ほど、わかっていることや産婦人科医の確保などすでに取り組んでいることはあえて提言しなくてもよいと発言があったが、モニター会議でもあえて提言するべきだと思う。まだ満足していないという姿勢を示すべきだ。

もう一つは、総合計画の問題点のなかで問題意識が一番高いのが「高齢者施設の充実」となっているが、無関心なところにも目を向けて欲しい。一番低いのが「保育サービスの充実」。関心が低い数字だがそうではないと思う。

○モニター

その話は、今までのモニター会議の中で出ていない話であり、今回この話をしたら先に進まない。今まで第1回・2回と出た内容に沿って話すべき。それでないとなんか巡りになってしまう。「座長にまとめるべきではない」と言っているが、自分もだいたいまとめている。それなら座長や事務局に任せたほうがよいと思う。

○モニター

任せるが、それに対しての意見を述べるべきだし、自分の意見を塞いでしまうのはモニター会議の意味が無いと思っている。

●事務局（広報広聴主査）

ここで、市政モニター会議のあり方を再度確認させていただきたい。今までのモニター会議は、市に対して個人的にこうして欲しいといことを要望する会となっていたことから、こうすればよくなるのではないか。これまでと違ったやり方があるのではないか。といった前向きな意見を出してもらおうということで、皆で議論して提言をまとめるやり方に変更したということをご理解いただきたい。

○モニター

今までも市政モニター会議に参加しているが、今回の会議が一番意見のぶつかりあいなどがあったよ会議になっていると思う。今までは町内会の街灯が切れているからどうかして欲しいなどただの要望会だった。その点、今は色々な意見が出ていてとてもよいと思う。ただ際限なく

意見を出しては、いつまでたっても終わらない。これまで2回目までに出た意見の中から検討すべきだ。

◎座長

それでは、「2-④教育レベルの向上」について意見を伺いたい。

○モニター

これは私の出した意見だと思うが、文化教育に対する関心が非常に低い関心度になっている。そして、私が出したのは、関心の無いところがために根室に対する認識や知識が低くなっている、魅力を理解していない。学校教育だけの教育では足りない。

●事務局（総務部長）

その意見については「3番 市民が知らない根室の魅力を発信する取組み」で議論したい。

◎座長

では、「2-⑤ケアマネージャー育成」について何か意見はないか。

○モニター

ハローワークなどで介護職に関する資格取得のための給付金や補助をやっていると思う。

○モニター

確かヘルパー3級の資格取得補助などを行っている。

◎座長

話は戻るが、「2-④教育レベルの向上」について提言書に盛り込むか。

○モニター

これは、先ほども話があったとおり、関心が低いところにも目を向けるべきだと思うし、教育は大切だと思う。

○モニター

教育は大切だと思うので、入れるべき。これはアンケート結果であって、関心が無いわけではないと思う。子育て・教育に関心のある私たち世代は、アンケート調査に前向きではないのでそれが反映された結果だと思う。

◎座長

「2-④教育レベルの向上」について提言書に盛り込むこととしたい。また、「2-⑥健康づくりの推進」と「2-⑦子どもと大人の相互見守り環境の整備」については、先ほども議論が出ており、皆の関心も高かったことから、提言に盛り込むこととしたい。

「3-①根室の魅力を伝える世界レベルのガイドの養成」について意見を伺いたい。

○モニター

自分はこれに大賛成である。現在、落石のネイチャークルーズで年間1,000人くらいの観光客が訪れる。うち外国人は1割程度で、英語を話せるガイドがもっと必要だと思う。英語を話せるガイドがほとんどいない。観光協会ではそういった取組みを行っているが、市としても英語が話せるガイドを養成する取組みにもっと力を入れる姿勢を見せて欲しい。

○モニター

それなら先ほどの教育レベルの向上にあわせて、中学生・高校生にガイド補助などをさせて語学力の向上を図ってはどうか。

○モニター

それが「3-⑥の観光に市民が積極的に参加できる環境整備」にも関わってくると思う。実際に関わっていけばネイティブな英語が身に付くのでは。例えば、中高生にバードランドフェスティバルの補助をしてもらうというのも一つの手。

○座長

教育のレベル向上でもあるし、ガイド育成にもなるので共通項というか大きな枠組みで一緒にまとめることとしたい。

「3-②子どもリーダー研修の内容充実」について意見を伺いたい。

○モニター

「3-②子どもリーダー研修の内容充実」は、「2-⑦子どもと大人相互見守り環境の整備」にもつなげられると思う。高齢者のよい意見を取り入れられるのでは。今核家族だから少なくなっている大人とのコミュニケーションも図れる。

○モニター

それは「3-④ボランティアガイドの育成」にもつながるので、「2-⑦子どもと大人相互見守り環境の整備」として大人が子どもに根室の魅力を伝え、ボランティアガイドとして育成することによってまとめてはどうか。

○モニター

バードウォッチャーの他にも、チャシも人気があるので歴史などのガイドもよいのでは。

○モニター

チャシや原生花園などの専門ガイドも育成するべきだと思う。根室に民間のガイドは何人かいるが、ただ「自分はガイドです。」と言っているに近い。国家資格を有している人もいるが、他の

人は、知識と経験はあるが肩書きとしては自称ガイドになってしまうので、北海道が実施している専門的な公認ガイドのような市認定ガイドなどを作って欲しい。

○モニター

北海道には公認ガイドがある。落ちてしまったが受けたことがある。確かに市公認ガイドがあるとよい。

○モニター

根室限定でもよいので作ったほうがよい。ガイドの枠を広げるためにも、本当に興味のある人は、鳥・花・チャシ・歴史など、どんどん取得して、マスターガイドなどと認定するとよいと思う。

○モニター

少し話はそれるが、ガイドするとなると、花や鳥・虫などの自然全般やチャシなどの歴史にと多岐にわたり、また、季節によっても全て違う。花なんかはある程度覚えないと教えられない。とても範囲が広い。トコロジストも鳥・花・虫・自然・チャシ・根室の歴史、例えば昆布の歴史なんかのことも説明している。最終的に根室にお金を落としてもらいたいので、ガイドの際に、根室に泊まることを勧めている。今年は案内したバスの6台全てが根室に泊まったが、去年の宿泊は7台来て半分の3台だった。これは、根室のガイドがおもしろいと思ってもらえた証拠。多くの人が専門分野を作っていくべき。

○モニター

自分もそう思う。今までなら観光に来て素通りして帰っていったが、今は根室で1日つぶせる。もしくは1日じゃ足りないというくらいになっている。そういうのを押したほうがよいと思う。

◎座長

今出た意見をまとめた形で提言書に盛り込むこととしたい。

次に、「3-③博物館の建設」について意見を伺いたい。

○モニター

注目を集めるために当初のアンケートに10億・20億と書いたが、せめて1億でも2億でも金をかけないと、今の資料館では博物館の体をなさない。

また、現在、歴史と自然の学芸員は居るが、文化と教育・産業についての学芸員が居ない。知識や資料はあるが、それを見せたり、説明できるような体制になっていない。先ほどガイドの育成という話が出たが、ガイドがその知識はどこから得ているかということ、自然にせよ、チャシにせよ、資料はやはり博物館（資料館）にしかない。博物館を充実するという事は、観光振興の面でも、産業振興の面でも色々なことに波及するが、とにかく市民の意識が低い。

総合計画によると、文化・教育については14%しか関心がない。医療・福祉は80%ある。医療福祉の関心が高いのはわかる。それはさておき、14%の関心度は低すぎる。強いていえば、博物館に対する意識がない、そういった知識を求めているということ。しかし、観光ガイドの基になる知識はどこから持ってくるのか。博物館がしっかりしていればレベルが上がる。あまりに関心が低すぎる。私一人の意見なら足りないが、モニター会議から出た意見とすれば感心と呼ぶと思うので提言書に入れたい。

○モニター

博物館をつくるよりも、今、意見が出た「伝えるための伝える人が居ない」という部分を充実させようということで博物館の建設を考えているのであれば、知識を持っている学芸員が2人いるので、もっとボランティア育成のための講習会などを学芸員に実施してもらえば知識向上になるのでは。博物館の建設はその後にあるのでは。方向性としてマンパワーを上げていこうとまとまってきているので、ここであえて博物館建設を押しよりも、市民の知識向上に重きを置いたほうがよいのでは。

○モニター

今の発言を聞いて腑に落ちた。自分としては基本的に博物館建設には反対である。しかし、ガイドの知識を持ってくるのは学芸員だというのは納得した。博物館の建設どうかは置いて、学芸員の充実には賛成する。

○モニター

増員せずとも、今居る学芸員の負担を軽減して、市民に知識を還元するという方向性になるとよいのでは。そして市全体としての知識を上げていけばよいのでは。その後にボランティアなどが増えれば、資料館の充実にもつながっていくと思う。

○モニター

私もそう思う。学芸員を生かすためには定期的に調査等のお手伝いをする人が必要。その人たちが知識を増やしていき裾野を広げていけば博物館を作りたいという発想に転換すると思う。まずは市民の意識醸成が必要ではないか。

○モニター

学芸員講演会やネイチャーセンターのイベントも行っているが、ほとんど集まらない。集まって10人。根室市民の関心を高めなくてはならない。

◎座長

話を戻し、すぐに博物館建設ということではなく、まず人を育てる。全てに当てはまると思うが、皆の関心が高まった結果が博物館建設になればという形でまとめることでどうか。

○モニター

人を育てるのは学芸員ではなく市民を育てて、市民の関心が増えれば、いずれはって言うかたちではないか。自分も、はじめは野鳥に興味はなかったが、今なら興味を持って観察している。

●事務局（総務部長）

まずは大人たちが理解・関心を深めることが大切。市民が関心を持てば、根室なんてどうのこうのという話がなくなるのでは。自分のふるさとが素晴らしいと誇れるようになる。

○モニター

ある街では、市民一人ひとりが街のガイドという意識があるそうだ。裾野が広がっていくのが望ましい。

●事務局（総務部長）

今一通りやって、ある程度話がまとまってきていると感じた。いろいろな分野がクロスしている部分もある。整理すれば3つの提言ができるのではないか。

◎座長

方向性がまとまってきたので、次回までに今日出た意見等を整理し、第4回を開催したい。

6. 閉 会